

移住から始まる

# 農業の可能性



ふじかわ農園を営む藤川夫妻

## 移住して新規就農

横浜市から飯豊町に移住して9年目になる藤川さん夫婦は、春から秋まできゅうりをハウス栽培しているほか、露地でもきゅうりやトウモロコシ、ブロッコリーなどを栽培している。

夫の直亮なおきさんは、移住前は青果市場で仲卸の仕事をしており、その経験から「農業には可能性がある」と感じ移住を決めた。

最初は思い通りにいかないこともあったが、わからないことがあると勉強し、試行錯誤の結果、安定して出荷できるようになった。

## 農業へのこだわり

夫婦で営む「ふじかわ農園」では、安定して品質の良い野菜を、効率よく、いかに多く作るかにこだわっている。また、市場からの要望に合わせ、消費者が求めるものを、求める時期に出荷しているという。

移住後に独学で農業を学び、全国を回って出会った多くの人から得た知識をもとに、徹底した品質管理のもと野菜を育てている。

野菜の観察に多くの時間をかけているという藤川さんは、野菜の声に耳を傾けることで、野菜にとって必要なものが分かるという。野菜にとっていい環境を作るため、ハウス内では温度や湿度のほか、肥料や二酸化炭素の濃度にまでこだわった細やかな管理を行っている。細やかな水分量の調節や肥料の調合は、これまでの観察から得たデータがもとになっている。

この徹底した管理を可能にしているのが、ハウス内や畑に設置されている、かん水※設備などの様々な「しかけ」である。

※かん水…農作物に水を注ぎかけること。水やり。

## ハウス栽培 [2棟 (8a/棟)]

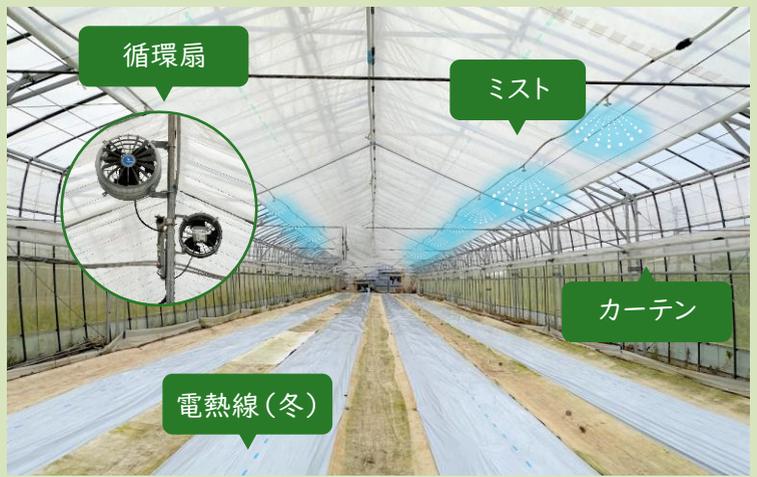
ハウス内では気温や湿度を管理するために設置されたミスト・循環扇・カーテンが自動化されており、水量や肥料も設定した時間でかん水するよう管理されている。

冬場は、<sup>うね</sup>畝に埋められた電熱線が地温を調節し、ボイラーで温められた水と肥料をかん水している。

特に水にはこだわりがあり、最近ウルトラファインバブル（超微細気泡）発生装置をメーカー協力のもと導入した。

## 露地栽培 [栽培面積: 1ha]

露地には、<sup>うね</sup>畝間にある配管から水と肥料を供給するかん水設備がある。



ウルトラファインバブル発生装置(左)とトウモロコシ畑(右)

### ふじかわ農園の栽培カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ハウス		きゅうり			秋どり きゅうり				サニーレタス			きゅうり
露地			ブロッコリー		トウモロコシ							
		トウモロコシ				ブロッコリー・ロマネスコ						



なおあき  
藤川直亮さん

東京都出身。夫婦でふじかわ農園を営む。情熱を燃やし、対話を大切にしながら野菜を育てている。

ふじかわ農園の情報はこちら(Instagram)→→→



## これから

これからの目標は、自らの右腕となる人を育成することだという。そのため、自身のもとに勉強したいと訪れる人に対しては、自身の持つノウハウを惜しみなく提供している。自分のやり方についてきてくれる人が現れ、自分のライバルとなり、互いに高め合っていけることが理想だと教えてくれた。